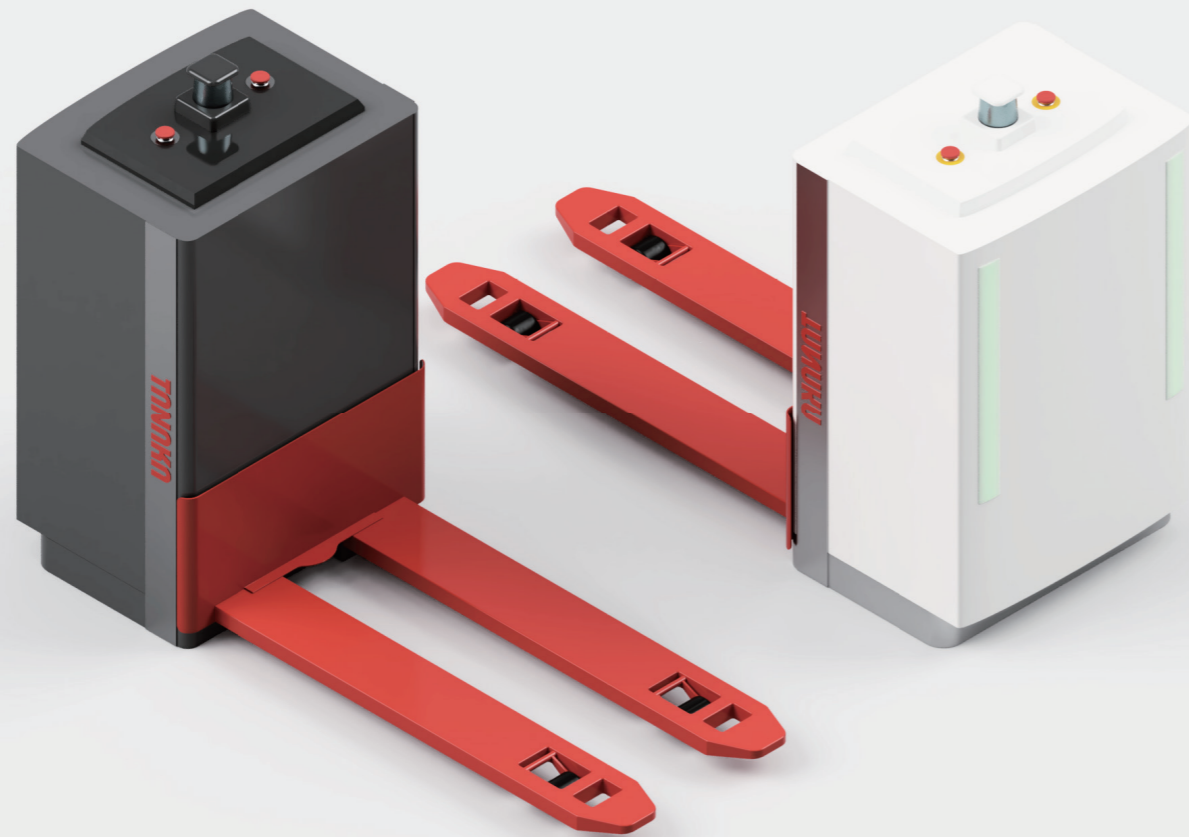


田中精密工業における AMR のデザイン



会社の認知向上を目指してCIカラーを用いた外装の提案

課題だった機械的な意匠を解決し、CIカラーを取り入れた外装デザイン
横展開することで「タナカエンジニアリングのAMR」というブランドを拡散することができる

田中精密工業・タナカエンジニアリング事業内容

自動車部品のロッカーアームを生産している工場
自社のライン構築を自社のSlerが担当
試作工場、検査設備をもち技術研究ができる

自動車業界の時代的背景

EV化に伴う製品需要の変化とともに、ロジスティクス4.0など
物流様式の変化や、働き手の不足のため省人化需要の増加

→その先にある潜在需要を察知し、戦略的な投資を通じて
サービスモデルを先行的に創造する必要がある

新規事業

AGV・AMRなどの開発

課題

機能と安全のみに着目して設計した結果、外装が機械的な
意匠になり、他社製品と差別化できない
商材により意匠傾向が異なり企業認知が進まない

外装の色相決定までのプロセス

1. AGV・AMR40機の意匠類型

AGV・AMRの市場における意匠分布から必要な意匠を検討

→CIカラーを使用した機械はアイキャッチに強み
→よりモダンなデザインに落とし込むことで差別化が可能

2. AMRの安全に関するJIS規格などを参照

→JIS D 6802：1997によれば色相の指定なし

3. ロゴからAMRの色相を検討

